

修士論文（要旨）
2012年1月

聴解ストラテジーを用いた教授法の開発と実践

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

210J3019

梁 凱傑

目次

第一章 研究の背景と目的

第二章 先行研究

2.1 海外における聴解ストラテジーの研究

2.2 日本における聴解ストラテジーの研究

2.3 日本における聴解教材の分析

2.4 本研究の位置付け

第三章 聴解授業の実践

3.1 実践概要

3.2 授業内容の構成と目的

3.3 アンケートとインタビューの実施概要

第四章 結果

4.1 アンケート結果

4.2 タスクシート

4.3 インタビュー結果

4.3 実践中の内省、修正と効果

第五章 分析と考察

5.1 アンケートに関する考察

5.2 タスクシートに関する考察

5.3 インタビューに関する考察

5.4 実践中の内省、修正と効果に関する考察

第六章 まとめ

6.1 本研究の限界

6.2 日本語教育への提案

6.3 今後の課題

第一章 研究の背景と目的

日本の文化やサブカルチャーにより日本への興味や関心を引き付けられ日本語を学び始める、日本語学習者が年々増えている。しかし、日本語の聴解以外の各能力と日本語聴解力に差があると言われている。

聴解力の停滞の原因の一つは、特に海外の日本語教育の現場では訳読法など文法重視の授業が依然として、主流であることだと考えられる。聞くことに関しては確立した指導方法がなく、聞く練習の授業があったとしても試験問題のドリル練習に偏っている。それだけでは聞くためにはどのようなスキルが必要で、どう育成できるかわからない。聴解ストラテジーの指導は不備、不適切だと考えられるが、現在ではそれに関する教育実践のデータが不十分だといえる。本論文では、以下の二点を研究目的とする。

1. 授業現場での聴解練習や授業の現状、および学習者の聴解に対する意識を把握する
2. 聴解ストラテジーを取り入れた聴解指導法を実践し、分析する

第二章 先行研究

O'Malley et al. (1989)は、聴解の認知過程を検証し、熟達した聴き手が聴き取りの過程で未熟な聴き手より多く使う聴解ストラテジーとして、自己モニター(self-monitoring)、推測(inferencing)、精緻化(elaboration)をあげている。Vandergift(1999:上田訳)は先行の聴解ストラテジー研究を概観した上で、三つの活動を提案した。Vandergift(2002)の実践調査ではストラテジーに対する知識の意識化が確認できた。Vandergift(2003)は学習者が聴解プロセスに注意を向けるようになることで予測による聴解力の向上が認められていたという。

日本では當作(1987)が外国語教授法理論、そして聴解の心理的プロセスを概観し、料理番組やニュースなど典型的な構造を持つ教材を利用したプロセス重視の聴解練習案を提案した。水田(1995)は独話聞き取りのストラテジーを調査し、「推測」のストラテジーが効果的であると述べている。しかしながら、日本語教育においては実践研究が少なく、理論と現場にギャップがあると考えられる。

第三章 聴解授業の実践

本研究の目的に沿い、香港のある民間日本語学校の協力を得て実践授業を行った。本研究の実践授業では、主に O'Malley et al. (1989) や横山 (2005) が提示した聴解ストラテジーを中心として教案を作成し授業を実践した。

第四章 結果

本実践研究の記録として、各授業の録音、録画、各学習者が記入したタスクシート、コース開始前と後で実施されたアンケート、そして四回目の授業の直後に行ったインタビューの録画と録音を各学習者の了承を得て回収した。調査対象者全員がこれまでの聴解練習量では不十分だと答えている。本研究の実践授業は聴解能力の向上に効果があると答えた者が大多数であったが、予測を誤ると聴解に悪影響を与えかねない、また2人が聴解ストラテジーの発揮に関して語彙力が強く影響していると指摘した者もいた。インタビューデータの分析によると、学習者は授業現場での聴解授業の効果に対して疑問を持っている。本研究のような授業がこれまでなく、聴解の方法を教えられた経験がないことも明らかになった。今後もストラテジーを用いな

がら日本語を聞き取る練習を試みると述べている。だが、ニュースや料理番組などの構成が文化によって微妙に違い、その違いが予測の正確さに影響するとの報告もあった。

第五章 分析と考察

結果の分析による、全般的に学習者はこれまでの聴解練習に対して不備・不適切だと感じ、本研究で示した聴解ストラテジーを身につけ、聴解能力を伸ばしたいという学習意欲を持っている。これには現場での聴解練習の量と質の問題と学習者自身が聴解力を向上する方法がわからないことを示唆していると考えられる。また、実践授業の媒介語を日本語から広東語に変更直後に議論が活発になったことから学習者は上級にも関わらず、思考、認知レベルの活動を母語を使用し行っていると推測できる。

第六章 まとめ

本研究では聴解ストラテジーの指導案を盛り込んだ実践授業を行った。アンケート調査を行い、学習者がこれまでの聴解練習について不満を感じることを確認できた。実践授業インタビューにより学習者が聴解ストラテジーの使用についてある程度の理解を身につけ、今度の継続的な練習を試みたいという学習意欲を示した。今後多様な練習方法を実践し、聴解指導方法を精緻化し、学習者データの学びの成果を分析・考察したい。考察結果に基づき、聴解ストラテジーの指導法における、汎用モデルを構築したいと考える。

参考文献

- Do Hoang Ngan (2010) 「ベトナム人日本語学習者が使用する聴解ストラテジー — 大学生を対象として —」 『国際協力研究誌』 16(1), 35-46
- Dunkel, P.A.(1986). "Developing Listening Fluency in L2: *Theoretical Principles and Pedagogical Considerations*". *The Modern Language Journal*, 70(2), 99-106
- O' Malley, J. A. (1989). "Listening Comprehension Strategies in Second Language Acquisition". *Applied Linguistics*, 10 (4), 418-437.
- Thompson and Rubin (1996). "Can strategy instruction improve listening comprehension?". *Foreign Language Annals*, 29, 331-342
- Vandergrift, L. (1999). "Facilitating second language listening comprehension: acquiring successful strategies?". *ELT Journal*, 53 (3), 168-177.
- Vandergrift, L. (2002). "It was nice to see that our predictions were right: Developing Metacognition in L2 Listening Comprehension". *The Canadian Modern Language Review*, 58 (4), 555-575.
- Vandergrift, L. (2003). "From Prediction Through Reflection: Guiding Students Through the Process of L2 Listening". *The Canadian Modern Language Review*, 59 (3), 426-440.
- 川口さち子 (2003) 「上級の力をつける 聴解ストラテジー (上) (下)」 凡人社
- 河内山晶子(1999) 「聴解ストラテジーの意識的使用による効果—学力差要因と、L1—L2 移転要因を中心に—」 『横浜国立大学留学生センター紀要』 6号, 27-37
- 財団法人 日本国際教育支援協会 新しい「日本語能力試験」ガイドブック
<http://www.jlpt.jp/j/about/pdf/guidebook1.pdf> (2009年10月2日)
- 財団法人 日本国際教育支援協会 新しい「日本語能力試験」問題例集—試験 問題の構成
<http://www.jlpt.jp/j/about/pdf/mondai/kousei.pdf> (2009年10月2日)
- 財団法人 日本国際教育支援協会 日本語能力試験 ～2008 (平成20年度) —実施状況— (5) 平均点等 http://www.jees.or.jp/jlpt/pdf/2008/08scr_07_12.pdf (2009年10月2日)
- 財団法人 日本国際教育支援協会 日本語能力試験 ～2009-1 (平成21年度 第一回) —実施状況— (5) 平均点等 <http://www.jees.or.jp/jlpt/pdf/2009/07-scr-08.pdf> (2009年10月2日)
- 澁川晶・宮元典以子・坂野加代子(2006) 「聴くトレーニング<聴解・聴読解>基礎編 日本留学試験対応」.スリーエーネットワーク
- 深尾百合子・水田澄子(1994) 「講義・講演を聴く」 くろしお出版
- 宮城幸枝・三井昭子・牧野恵子・柴田正子・太田淑子 (2003) 「毎日の聞きとり plus40 (上) (下)」 凡人社
- 山本富美子(1994) 「上級聴解力を支える下位知識の分析—その階層化構造について—」 『日本語教育』, 82
- 横山紀子 (2004) 「第2言語における聴解ストラテジー研究：概観と今後の展望」 『第二言語習得・教育の研究最前線-2004年版-』, 184-201

横山紀子(2005)「『過程』重視の聴解指導の効果 ー対面場面における聴解過程の分析からー」『第二言語としての日本語の習得研究』, 8, 44-63